

福知山 未来創造プラン（案）の概要

～未来を描く「福知山幸せの舞台」構想～

プラン策定の趣旨

- ・福知山 未来創造プランは、**福知山市の将来あるべき望ましい姿**を設定し、その実現に向けて市民の総力を結集するとともに、これからの住民福祉向上のために必要な施策を体系化し、**総合的・計画的なまちづくりの指針を定める**ものです。
- ・「ビジョン」は未来の福知山市を展望しています。ビジョンとは、**将来の構想**を表すもので、福知山市や福知山市民が大切にしたいことや普遍的な価値観を意識しながら、**将来こうありたいという社会の姿**を描いています。

福知山市市民憲章

- ・市民憲章は、「**福知山市民の恒久の願い**」です。
- ・時代が変われども決して揺らぐことのないこの**普遍的な価値観**を、福知山市のまちづくりにおける最も基本的な考え方として掲げます。

幸せを生きる

わたしたちは、ふるさと福知山を“幸せの舞台”にします。
水清い由良川、緑濃い山々、行き交う人々。
生き生きとして、伸び伸びとしたふるさとをつくります。
わたしたちは、ひとりひとりの中に
人生を自由で美しいものにする力を持っています。
そのわき出る力を集め、四季を愛し、命を尊び
共に幸せを生きます。

平成3年4月1日制定

ビジョン

- ・子どもからお年寄りまで、市民一人ひとりがお互いの人権を尊重しながら能力や個性を最大限発揮するとともに、対話や交流によってつながり、互いに協力し高め合うことで**大きく広がった“わ”こそが、このまちを動かす原動力**となります。
- ・原動力をもとにして、住民自らが考え、行動することにより、社会構造が急速に変化する中でも温かみや幸せを感じられる、**強くしなやかなまちを持続し、発展させていく**ことができます。
- ・“わ”を原動力とした交流により住民自らの中からわき出る力を集めることで、ここで暮らす様々な人々がそれぞれの思いや願いを自ら実現することのできる、**多様性あふれる高次機能都市**をめざします。

“わ”とは、

「輪」 = 人のつながり・絆	「話」 = 話し合い・コミュニケーション
「我」 = 個々の取り組み・自助	「和」 = 協力し合う関係・平和・共助
「環」 = 巡り巡りつながり 合う・循環	人がつながり“わ”を広げる

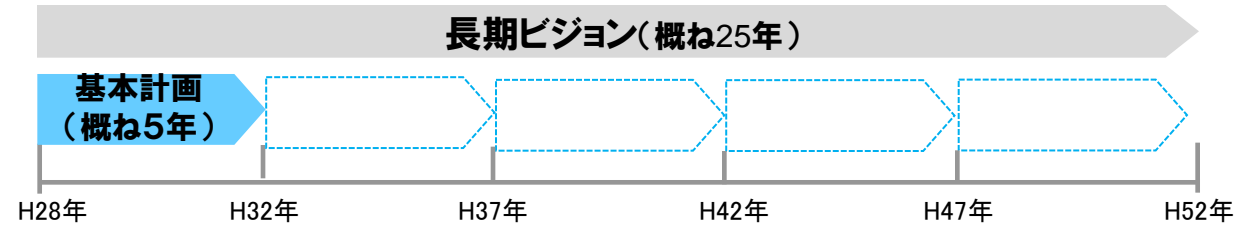
福知山市の未来の姿

- ・私たちが、めざそうとする福知山市の未来の姿は、次の5つです。
- 誰もが生きがいを感じる まち
- 多様な活動があふれるまち
- 多様性にあふれ新たな価値を創造するまち
- 豊かな環境や文化を活かしすべての地域が輝くまち
- 安心・安全に暮らせるまち

プランの構成と目標年次

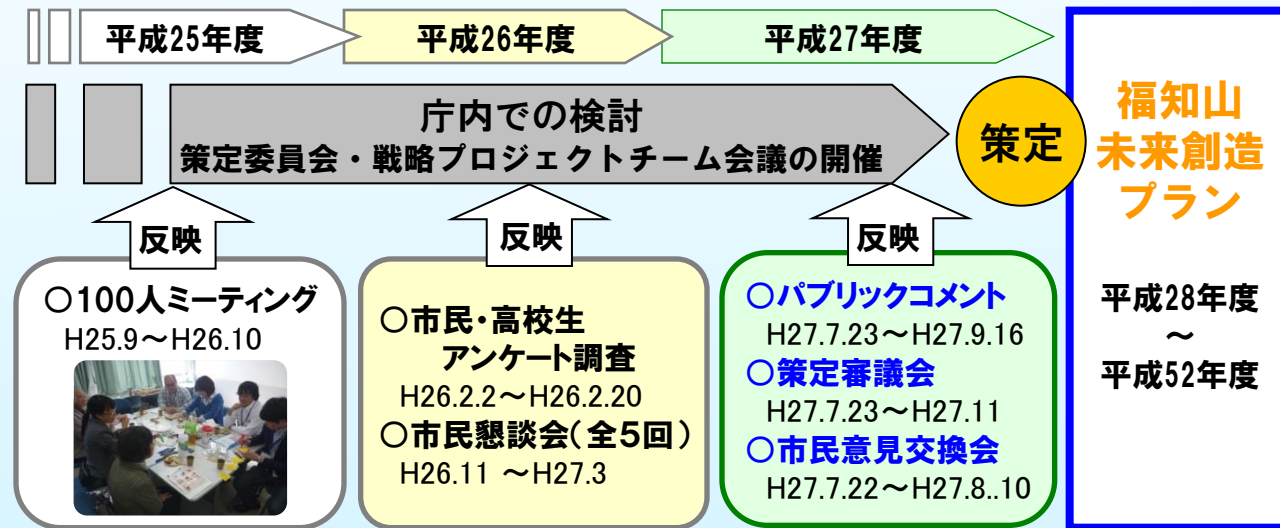
長期ビジョン：まちづくりにおける基本理念およびめざすべき将来都市像を掲げます。

基本計画：長期ビジョンの基本理念や将来都市像を実現するための基本戦略を体系化します。



プラン策定に向けたこれまでの取り組みと今後の取り組み

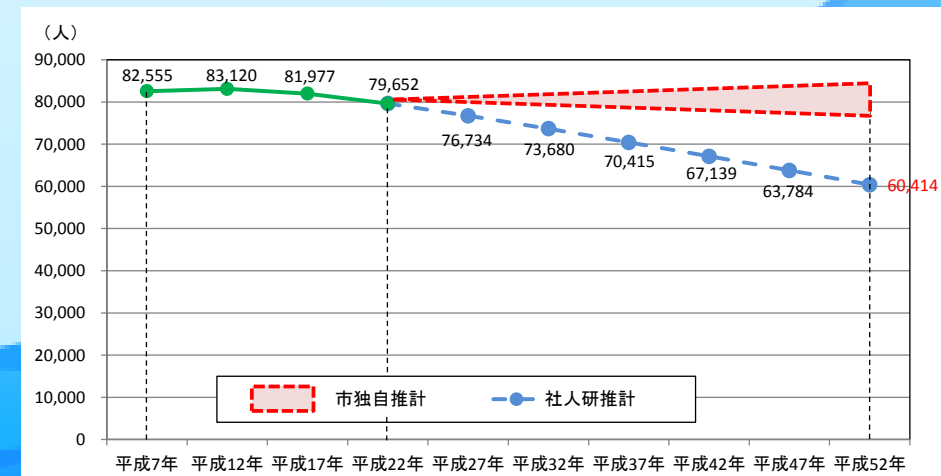
・さまざまな機会を通じて**幅広く市民の意向を把握し、市民参加・参画のもとでプランを策定**していきたいと考えています。



人口の目標

・長期ビジョンの目標年度である平成52年には、**75,000人～85,000人**の人口の確保をめざします。

出典：国勢調査
(平成7年～平成22年)
国立社会保障・人口
問題研究所
(平成27年～平成52年)



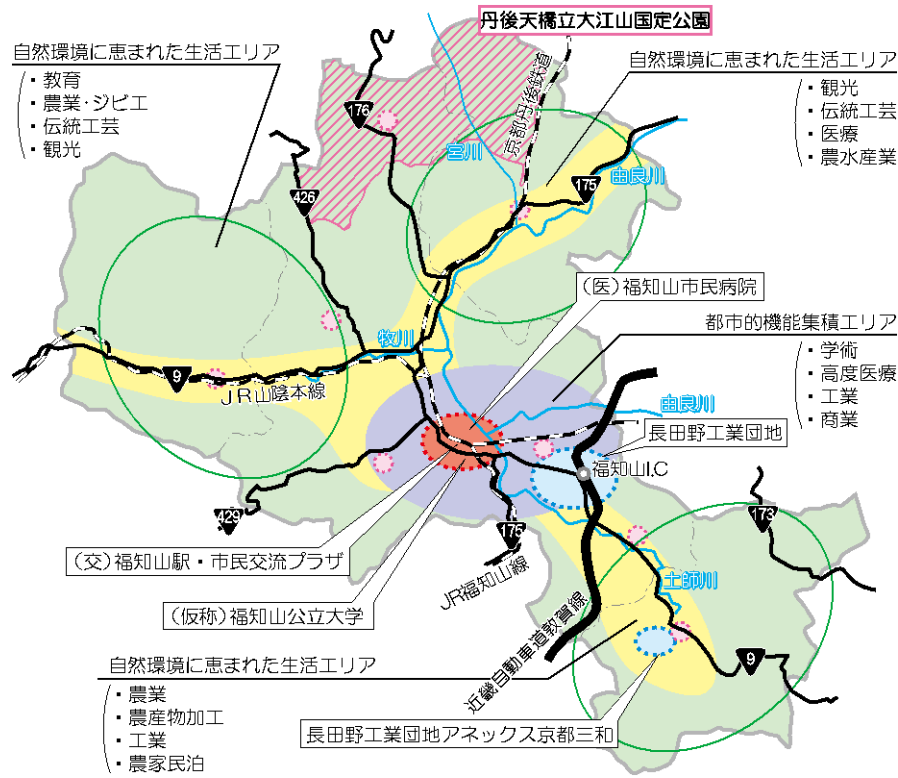
目標とする都市構造図と施策体系

～未来を描く「福知山幸せの舞台」構想～

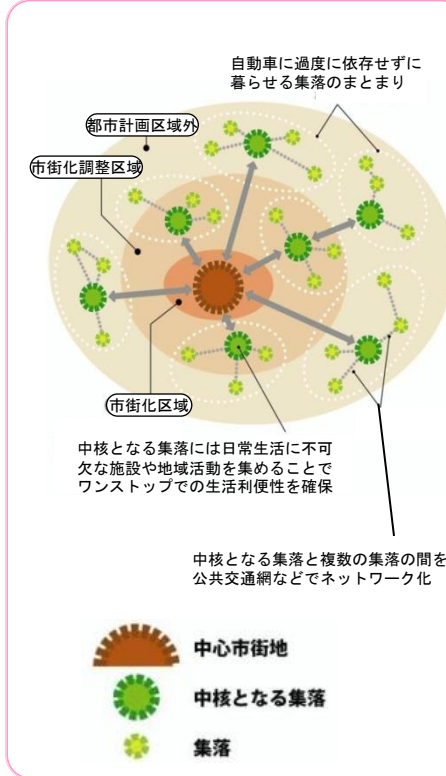
社会潮流と本市の状況

- ①人口減少と超高齢社会
- ②市民協働の流れ
- ③生命・人権の尊重
- ④人材育成・教育のまちづくり
- ⑤子育て支援の充実
- ⑥社会基盤の再構築
- ⑦地域間連携の強化と地域資源の活用
- ⑧安心・安全な社会の構築
- ⑨環境共生への取り組み
- ⑩地域経済・産業を取り巻く環境の変化への対応
- ⑪厳しい財政状況

目標とする都市構造図（多様性あふれる高次機能都市）



小さな拠点のイメージ



凡例			
エリア		都市的機能集積エリア	市街化区域を中心に拠点施設が整備され、都市的機能が充実しており、中心市街地の活性化を促進しつつその役割を強化し、中核的役割を担う
		まちと自然のエリア	優良な農地も多く、都市的機能も適度に整備されており、生活環境を整備し、利便性を高め定住を促進するとともに、農地の保全・活用を図る
		森林共生のエリア	山間地、中山間地を主とする地域であるが、都市住民との交流と定住を促進し、農林業の振興と豊かな自然と共生した生活環境の維持を図る
		自然環境に恵まれた生活エリア	「まちと自然のエリア」と「森林共生のエリア」を含めて1つの農村生活圏を形成し、農村生活圏における日常生活を支える拠点の形成と強化を図る
拠点地区		都市拠点	行政や防災の拠点施設を核として、高次の公共サービスを提供する拠点としての役割を果たす
		小さな拠点	支所や公民館などを中心に、住民の日常生活を支え、コミュニティ活動や交流を支援する小さな拠点としての役割を果たす
		工業生産拠点	長田野工業団地とアネックス京都三和が密接に連携し、地域内生産の循環システムを構築し、住民の良好な職場として定住促進の役割を果たす

まちづくりの重要視点

政策

施策の大綱

みんなで進める
人権尊重・住民自治の
まちづくり

第1章
市民が主体の
まちづくり
(協働・人権)

1. 市民協働の推進
2. 人権・平和の尊重
3. 男女共同参画の推進
4. ユニバーサル社会の形成

次代を担う人材育成と
文化とスポーツ活動が
盛んなまちづくり

第2章
人と文化・
スポーツを育む
まちづくり
(教育・文化・スポーツ)

1. 生涯学習の推進
2. 青少年の健全育成
3. 学校教育の充実
4. 高等学校との連携
5. 大学教育の充実
6. 文化財の保護・保存
7. 文化活動の推進
8. スポーツ活動の推進

社会基盤が整い、
快適な生活を
営むことが
できるまちづくり

第3章
だれもが快適に
暮らせる
生活基盤の整った
まちづくり
(生活基盤)

1. 土地利用および市街地・集落整備
2. 公共交通の最適化
3. 道路網の整備
4. 生活空間の整備
5. 上下水道の整備

人と自然が共生する
安心・安全な
まちづくり

第4章
豊かな自然の中で
共に安心して安全に
暮らせるまちづくり
(防災・環境)

1. 防災対策の強化
2. 消防・救急体制の強化
3. 防犯・交通安全対策の推進
4. 自然環境の保全・共生の推進
5. 低炭素・循環型社会の形成

地域で支える
みんなにやさしい
健康・医療・
福祉基盤が
整ったまちづくり

第5章
子どもから
高齢者まで
だれもが健やかに
暮らせるまちづくり
(保健・医療・福祉・子育て)

1. 保健・医療・福祉の包括的な推進
2. 地域福祉の充実
3. 子育て支援の充実
4. 障害のある人の福祉の充実
5. 高齢者福祉の充実
6. 生活支援の充実

地域の個性と
資源を活かす
産業創造と交流連携の
まちづくり

第6章
地域の特色を活かした
にぎわいのある
まちづくり
(産業・地域活力)

1. 農林水産業の振興
2. 商工業の振興
3. 観光業の振興
4. 雇用の確保
5. 移住・定住の促進

第7章
行財政効率の高い
まちづくり

1. 行政改革の推進
2. 高度情報化の推進